公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 （２０１９年度 助成者）

作成日 2019 年 8 月 27 日

氏名（フリガナ）	川井恵（カワイメグミ）
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	２０１９年８月１２日（月）～ ８月１７日（土）
大学名 学年	筑波大学 ５年

今回の Medical English Workshop は、昨年までとプログラム内容を変えて初めての試み、とのことでした。研修通して成長した点は、英語での症例プレゼンができるようになったということと、ハワイ大学医学生の授業での積極的な姿勢を見て刺激を受けたということがあります。

まず一点目について、ハワイ大学の医学生に模擬患者になってもらい医療面接した内容を、先生の前で症例プレゼンしアドバイスをいただくという流れを何度も繰り返し、非常に勉強になりました。過去にも何度か英語で医療面接をしたことはありましたが、基本的な質問をしつつ鑑別診断を考えて、絞っていく質問をしていくことができていませんでした。しかし今回何度も練習しアドバイスによって改善していく過程を繰り返したことで、医療面接から鑑別診断、アセスメント・プランまでの流れが自然と身に付きました。

医療面接の練習を何度もしていると、患者に全ての質問を聞ききることに集中しがちでしたが、ハワイ大学の学生に、”Just try to have a casual conversation with a patient. Especially on social history.”と言われ我に返りました。症状についての情報収集は大切ですが、第一にすべきは信頼関係を築くことであり、医療面接は尋問ではない、患者への興味を示すこと、と言われ続けてきたことを改めて実感しました。

また症例プレゼンの方では、鑑別・アセスメントを言う上で、キーとなる情報をプレゼンの始めに持ってくることを学びました。実際他の人のプレゼンを聞いていると、文頭で患者の年齢・性別・主訴のみを言うよりも、重要な既往やリスクファクター、鑑別の理由となる項目などを取り上げて併せて始めに言っているプレゼンの方が要点を掴みやすいと感じました。最終日に全員の前で症例プレゼンする機会をいただき、どうすれば聞き手にとって分かりやすいのか考えてまとめ直し、何度も先生に見ていただいたことで内容・プレゼンテーションの仕方ともにステップアップすることができたと感じています。

また二点目について、プログラム中、ハワイ大学医学生と共に、症例プレゼンを聞いて鑑別診断を考える、というセッションがありました。症例の難易度は高かったものの、ハワイ大の学生は積極的に先生に質問するなどして発言し、最終的には鑑別にたどりついていました。med school の 1,2 年生であるにも関わらず知識量が豊富であることにも驚きましたが、何より、考える過程から皆で共有しディスカッションを進めていくやり方が新鮮でした。今までの情報から自分で考えたこと、clarify しなくてはならない点、鑑別に合致する点・しない点など全て発言し、結果、情報が整理されて効率的に議論が進んでいました。思考過程も含め皆で情報共有することは、実際の医療現場でチームとして円滑に事を進めていくために非常に大切だと思うので、今のうちから習慣づけていきたいと感じました。

本研修通して、多くを学び得たのはもちろん、ここで出会った仲間たちと貴重な時間を過ごすことができ、本当に参加して良かったと感じています。

最後になりましたが、今回の Medical English Workshop を実現するためにご尽力いただいた、先生方、HTIC のスタッフの方々、日米医学医療交流財団の皆様に、心から感謝申し上げます。Lifelong experience となる貴重な体験を、本当にありがとうございました。